



明治大学 校友会

秋田県支部会報

第 27 号

H 29. 8. 12

柳谷理事長(能代市出身)が出席 県南から16人駆け付ける 県支部総会

明治大学校友会秋田県支部の2017年度総会が7月8日、秋田市の秋田キャッスルホテルで開かれ、能代市出身

の柳谷孝・明治大学理事長が東京から駆け付けた。校友も例年より多い64人が出席し、にぎやかな総会・懇親会と

なった。特に県南からはバスをチャーターするなどして16人が参加し友好を深めた。総会では加賀勝己支部長(弁護士、昭和40年・法卒)が「わが母校は、学生が入りたい大学ナンバーワンになっている。関係者の努力のたまもの。私たちも、その一助に

なれば、との思いで協力していきたい」とあいさつ。来賓の柳谷理事長と山口征義・校友会相談役、幕内達二・校友連携事務局長が紹介された。2016年度の会務報告と決算報告、2017年度の事業計画案と予算案をいずれも原案通り承認した。

特別寄稿

まず初めに、7月に秋田県を襲った未曾有の大豪雨で被害に遭われた皆様に、心からお見舞い申し上げます。河川の氾濫や道路の冠水、そして住宅の浸水などでご苦労をされている関係者の皆様に対し、一日も早い復旧をお祈り致しております。

さて、私は昭和26年に、秋田県能代市で生まれました。そして、中学1年生までの少年時代を湯沢市と秋田市で過ごしました。先祖代々、生粋の秋田県人というのが私のファミリーヒストリーです。そのせいでしょうか、私は

時々無性にキリタンポ、稲庭うどん、ハタハタを食べたくくなります。本年7月8日の校友会秋田県支部総会に出席する前に、近所でひそかにキリタンポ定食を食べてしまったくらいです。父は仙台に本社のある河北新報の記者で転勤が多く、母はいつも明るい太陽のような存在でした。サラリーマン家庭でありながら、私と妹を秋田から遠く

同心協力

明治大学理事長 柳谷 孝

離れた大学に送り出してくれた両親に、今更ながら感謝し、仏壇に手を合わせるこの頃です。

ところで、昨年の5月10日に新理事会が発足し、早くも1年が経過しました。この間、秋田県支部をはじめ全国の校友会の皆様には、本学発展のために多大なるご支援とご指導を賜りま

ります。理事長就任初年度となります2016年度の本学の決算は、お蔭様で基本金組入前当

一方で本学が日本はもちろん世界のトップユニバーシティとして輝き続けていくためには、教育・研究環境の更なる充実、地方出身学生や海外留学生に対する奨学金制度の充実等、多くの課題が残っています。現代の学生達は、未来予測が困難な時代に、世界の荒波の中で逞しく生き抜かなければなりません。教室や図書館で懸命に学びに向かう彼らの姿を目にしますが、その中には、経済的に

苦境にある学生が多くいます。こうした学生のために何ができるのか。彼らの未来に思いを致すとき、安心して学業に専念できる環境を整備することが、何よりの励みになると考えます。明治法律学校設立の趣旨にも書かれている「同心協力」。3名の創立者が文字通り同心協力をして設立した明治大学。その明治から巣立つ学生たちが、大海原に向けて高々と帆を揚げ、大きな舞台に挑戦し、活躍することこそ、私達校友に共通の願いでありましょう。その願いの実現には、継続的な校友の皆様による支援が大きな力となります。学生として大学に在籍するのは数年間ですが、校友は一生です。校友会秋田県支部の皆様が、後輩学生の支援を通じて、次代の校友を育成する。今こそ、「同心協力」の輪を秋田発で広げていただければ、ようお願い申し上げます。



新しい風を!

秋田県支部校友会の皆様を支えられ、どうか1年を終えることができました。地震に見舞われた熊本県校友会への復興支援。大学院長の坂本恒夫先生をお迎えしての公開講演会。北秋明大会と県南支部のマンドリン倶楽部公演に対する支援。「秋田県支部会報」第26号の発行。秋田県支部ホームページの開設など、さまざまな活動に取り組んで参りました。

今年度も校友の皆様の協力を得ながら、昨年に引き続き「会報」の発行、ホームページの機能拡充、県北・県南両支部の地域交流に対する支援、さらには明治大学秋田県父母会との連携強化に努めて参ります。



県支部総会に出席した柳谷理事長は祝辞の中で、まず古里・秋田への思いを強調した。そして理事長就任後、「明治大学は随分変わったと感じた」と切り出し、

特に今年は、明大秋田県支部が東京六大学OB会(神宮会)の幹事校の年に当たります。多くの校友の皆様の参加を期待しています(神宮会の詳しい内容はホームページをご覧ください)。

先の7月8日、秋田キャッスルホテルの支部総会においては、能代市出身の柳谷孝明治大学理事長をお迎えし、昨年以上に多くの校友の参加が見られましたことは大変に喜ばしい出来事でした。

理事長からもお話がありましたように、私学が官立の大学と異なるところは、明確な建学の精神があるところです。自由民権運動の時代の流れの中にあつて「権利自由」「独立自治」を掲げ、権力におもねることなく自立の道を歩む若者たちがいたことは、

その一例として「今の学生は校歌を歌えなくなつた」と語つた。

このため柳谷理事長は「京王電鉄にお願いして、明大前駅のホームに今年3月25日から列車接近メロディーに明大校歌を流してもらっている」と話し、「大学の校歌が流れる駅は全国でも初めてだ」と強調した。

柳谷理事長は野村証券専務、副社長、副会長などを歴任し、昨年5月に明大理事長に就任した。



明治大学に学んできた我々にとって大きな誇りとなつていきます。

近代日本の歩みの中で、若者たちが在野の反骨精神を深く心に刻み、創り上げてきた伝統の校風は今も息づいています。それは決して懐古的姿勢ではなく、常に新しい風を吹き込んで、時代を切り拓いてきた多くの先輩諸氏の歴史でもあります。

このことの一端は、明治大学が女子教育の先駆けとなつたところにもうかがえます。日本初の女性弁護士、日本初の女性裁判官を輩出し、そして今年、何よりも驚かされたのは六大学の女性応援団長の誕生でした。

翻つて秋田県支部とはいえ、少なくとも校友活動にどれだけの女性校友を迎え入れ

収支計算書(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日) (単位:円)

収入の部	予算額	決算額	差額
I 本部より助成金収入			
1 支部総会開催通知費	165,000	169,853	-4,853
2 支部総会会場費	150,000	197,000	-47,000
3 支部運営助成金	218,000	218,000	0
4 支部公開講演会会場費	100,000	99,812	188
5 講演会チラシ等作成費	50,000	62,640	-12,640
II 支部会費収入	480,000	501,000	-21,000
III 総会費収入	300,000	210,000	90,000
IV 寄入金収入	0	0	0
V 特別寄付金収入	80,000	0	80,000
VI 果実収入	1,000	1,324	-324
VII 広報費	0	0	0
VIII 雑収入	0	214,648	-214,648
IX 基金取崩収入	0	0	0
収入合計	1,544,000	1,674,277	-130,277
前年度繰越収支差額	4,154,274	4,154,274	0
合計	5,698,274	5,828,551	-130,277
支出の部	予算額	決算額	差額
I 事業費			
1 学生表彰費	0	0	0
2 学生団体助成金	30,000	0	30,000
3 地域支部交流費	600,000	608,000	-8,000
4 支部公開講演会費	250,000	338,452	-88,452
5 熊本地震義援金	300,000	300,000	0
6 その他事業費	150,000	185,000	-35,000
II 広報費	0	0	0
1 支部会報発行費	300,000	299,776	224
2 広報関係費	100,000	61,467	38,533
III 組織費			
1 地域支部助成金	0	0	0
IV 運営費			
1 会議費	700,000	740,606	-40,606
(1) 支部総会費	80,000	106,994	-26,994
(2) 役員会費	10,000	0	10,000
(3) 監査委員会費	20,000	0	20,000
(4) 委員会費	50,000	21,008	28,992
(5) 業務費	40,000	40,000	0
2 事務費	50,000	42,460	7,540
3 慶弔費	0	1,278	-1,278
V 積立金	0	0	0
VI 予備費	0	0	0
支出合計	2,680,000	2,745,041	-65,041
当年度収支差額	-1,136,000	-1,070,764	-65,236
次年度繰越額	3,018,274	3,083,510	-65,236
合計	5,698,274	5,828,551	-130,277

収支予算書(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日) (単位:円)

収入の部	予算額	支出の部	予算額
I 本部より助成金収入		I 事業費	
1 支部総会開催通知費	165,000	1 学生表彰費	0
2 支部総会会場費	180,000	2 学生団体助成金	30,000
3 支部運営助成金	218,000	3 地域支部交流費	200,000
4 支部公開講演会会場費	0	4 支部公開講演会費	0
5 講演会チラシ等作成費	0	5 熊本地震義援金	0
II 支部会費収入	510,000	6 その他事業費	240,000
III 総会費収入	300,000	II 広報費	
IV 事業収入	0	1 支部会報発行費	300,000
V 寄付金収入	0	2 広報関係費	60,000
VI 果実収入	1,000	III 組織費	
VII 雑収入	70,000	1 地域支部助成金	0
		IV 運営費	
		1 会議費	
		(1) 支部総会費	700,000
		(2) 役員会費	80,000
		(3) 監査委員会費	10,000
		(4) 委員会費	10,000
		(5) 業務費	50,000
		2 事務費	50,000
		3 慶弔費	50,000
		V 積立金	0
		VI 予備費	0
収入合計	1,444,000	支出合計	1,780,000
前年度繰越収支差額	3,083,510	当年度収支差額	-336,000
合計	4,527,510	次年度繰越額	2,747,510
		合計	4,527,510

ることができるとか。大いなる不安を感じてしまいます。7月8日の支部総会に参加された校友は、平成卒が3割ほどになります。若い校友の参加が見られるようになったことは嬉しいことです。しかし女性の方の出席は2人。残念な

から懇親会への参加は、たったの1人という状況でした。参加が見られなかったのは、これまでの執行部の姿勢・体制に問題があったことでしょうか。無言の意思表示「NO」を突きつけられたと受け止めなければなりません。

昨年の会報でも触れましたが、大学の使命は「知の継承と新たな価値物の発見創造」といわれます。常に新しい風を吹き込まなければ伝統は死に絶えてしまいます。古いスタイルを守り続けることが伝統を生かすことでは決してあ

りません。上下関係からフラットな関係へ。そして「おとこ社会」から「おとな社会」のしなやかさをもった組織へと変えていかなければなりません。容易なことではありませんが、「sikadanebe」ではなく、ま

ずは理屈なしに「omostrena」から取り組んで参ります。創立者や当時の若者たちに思いを馳せ「権利自由」「独立自治」を唱えるとき、古い体質を打ち破り新しい風を吹き込もうとした人たちの姿がよみがえります。

校友・木村了氏を偲ぶ

木村了先生との交友は30数年前からであり、明治大学の校友会を通じてである。知り合ってから税理士(木村先生)、弁護士(私)として、その職を通じて親しくなり、加えて彼は県北の大館鳳鳴高校、私は能代高校という地方高校出身者であったことで親近感が湧き、親しくなった。



木村了氏

学生時代、互いに時期は異なるが、大学図書館の特に第三閲覧室で朝から晩まで勉学に励んだことが共通の思い出として残る。

二人が秋田市内で税理士、弁護士として開業してからは、仕事上の付き合いのみならず、お互いの専門職を生かして協力してきた。

秋田労働基準局の秋田地方最低賃金審議会の会長、副会長として10年間、二人三脚で解決に努力したことも忘れら

れないことである。木村先生は、母校明治大学経営学部の講師をしており(そのほかに木村先生が秋田経法大学経済学部Ⅱ現在のノースアジア

数々の思い出が脳裏に

大学Ⅱの教授であったことは周知のことである)、税理士としての業務の傍ら、週に一度東京の講義に通うという生活であった。木村先生の奥様は、東京の私立大学の教授であったから、東京での仕事は、彼にとっては奥様との楽しい出逢いでもあったと思われる。

校友会では、私が東京での支部長幹事長会議に出席したとき、木村先生からあちこちの支

部長を紹介され、その顔の広さにびっくりした。しかし彼の大学教員としての活動からみれば明治大学での顔の広さも当然であり、いづれ秋田県支部の支部長として活躍してほしいと思っ

たものである。数年前に、東京で全国明治大学校友会があったとき、秋田からも数名が参加したが、木村先生がお茶の水の明治大学隣の「山の上ホテル」のレストランを予約しており、二次会として

楽しい一時を過ごしたことが思い出される。このときの全国大会は、東京での大会ということでは1000名の校友が参加して帝国ホテルで開催され、大いに盛り上がった。その余韻に浸り、木村先生ご夫妻を囲んでの二次会もまた盛り上がり、大いに飲み、かつ語った。

木村先生が東京で体調を崩され入院しているとの話を聞き驚いたが、奥様の看護を受けてい

るとのこと、いづれまた元気になるだろうと思っていた。元気になったところで、また二人でのんびりゴルフでもやろうと思っていたところ、思いがけず訃報を受け、言葉にならなかつた。親しい友を、しかも私よりも年若い友を失ったことは残念でならない。

●全国校友沖縄大会

木村了(きむら・さとる)氏Ⅱ平成29年3月26日午後11時29分左尿管がんのため横浜市内の病院で死去、70歳。自宅は秋田市広面。代表を務めていた秋田税経プランニングと木村家の合同葬が4月4日、秋田キャッスルホテルで行われた。昭和44年、明治大学政経学部卒。税理士。同大学校友会秋田県支部の役員を長く務め、死去当時は副支部長、代議員だった。平成8年から15年まで東北税理士会副会長、同会秋田県支部連合会会長。26年から秋田地方最低賃金審議会会長を務めていた。

秋田県支部も、常に「新しい風を！」です。秋田県支部幹事長 大坂良宏(昭和52年経営卒) ●県内就職促進へ秋田県と明治大学が協定 秋田県と明治大学は平成29年2月15日、学生の県内就職に向けた協定を結びました。県が首都圏などの大学と就職促進協定を結ぶのは、明大で11校目となります。東京六大学では明大が初めて。



(明治大学HPより)

◆秋田県での高大連携の取り組みを各種メディアが取材し、明治大学と秋田県五城目高校との高大連携の取り組み「パフォーマンスゲームを活用したアクティブラーニングの実践」が各種メディアに取材されました。

本実践は、小野田亮太さん(国際日本学部4年)が中心となり、明星大学、東京学芸大学と大学間で取り組んできた活動です。

◆進学校教諭が選ぶ「就職に力を入れている大学」ランキングで、明治大学が7年連続の1位。東洋経済オンラインが公開した「就職に力を入れている大学」ランキングで、明治大学が7年連続と選ばれました。このランキングは、大学通信が全国の進学校2,000校の進路指導教諭にアンケート調査を行ったもので、本学への評価理由として「就職ガイダンスの充実」や「学生への目が行き届いている」といった点が挙げられています。

◆サッカー日本代表の長友選手が表敬訪問。サッカー日本代表で、インテルナツィオナーレ・ミラノ(イタリア・セリエA)でも活躍する長友佑都選手(2009年政治経済学部卒)が7月5日、土屋

編集後記

「しよつづるを毎日のように食べ、夏の暑い時でも貝焼きを好んだ。秋田へ向かう列車に乗ると、途端に秋田弁になる。サケが古里に帰るがごとく、生前の父は「秋田恋しや」でした」▼戦後、参議院議員(全国区)を1期務め、劇作家として活躍した金子洋文の娘さん。東京住りから、こんな話を聞いたことがある。洋文ならずとも人間、歳をとるごとに古里への思いが強くなり、こみ上げてくるようだ▼母校の柳谷孝理事長も例外ではない。「私には秋田の血が流れているのだろう。やはりキリタンポ、ハタハタ、いぶりがっこを食べたくなる」。秋田県支部総会でのあいさつの冒頭、こう語り掛けた。能代市に生まれ、中学1年まで本県で育った人は、紛れもなく「秋田人の顔」になっていた▼この日は全国8カ所で支部総会が開かれていた。そんな中で東京から秋田に駆け付けてくれた柳谷理事長の心意気に感謝、多謝。秋田弁も聞きたかったなあ。(編集担当・大地)

寄稿・投稿

明大生としての大学生活も残り半年ほどになった今、大学生活を振り返るとまあ、なんとかなるべきことはこなせたかな、という心象だ。私が大学に入学する際に抱いた最大の目標は「大学生活を思い切り楽しんでやろう」だとか「学年でもトップの成績を修めてやろう」とかいうものではなく、1年生から3年生まで一貫して「公認会計士試験に現役で一発合格する」ことだった。

困の方々の期待に少しは応えられたと思う。また、弟や後輩たちのいい刺激にもなれたと信じている。

でも、私の場合は学生寮生活であつたが)を通して、主体的に物事をこなし、生活力が少しはついた。明治は首都圏の実家に住む学生が多いが、一人暮らしを早く経験できるという点で有利だつたと思う。

明大で学んだこと

佐藤 凌太郎

ラグビー明早戦を応援したときの筆者



で終わることができ、大好きな読書に没頭できるようなことになったことである。という冗談は置いておいて、とにかくこれから、明治大学で学んだことを生かし精いっぱい頑張っていきたいと思えます。(商学部4年)